

○お茶の水女大家政 保坂久美子      お茶の水女大家政 袖井孝子      漢陽大家政 徐 炳寂  
 実践家専家政 鄭 寂子      共立女短大家政 細江容子

目的：産業化の進展に伴い多くの社会には業績主義、効率主義の価値観が浸透し、「若さ」や「生産性」が重視される傾向にある。こうした社会においては生産性の乏しい老人の地位は低下し、老人は「無能なもの」「役に立たないもの」としてとらえられる傾向にあるといわれている。このような中で、文化的にも近い位置関係にある日本・台湾・韓国の大学生が持つ老親への責任意識や老人観を知ることは、将来の老人問題を考えていくうえで意義があると思われる。本研究では、特に大学生の持つ老親への責任意識をとりあげ、それに対する三か国の相違点とその規定要因を明らかにする。

方法： 自計式質問紙法による調査を日本 61年6月～7月、台湾 9月～10月、韓国 6月～7月に実施。対象となったのは日本：東京都内および近郊7大学の学生 567名、台湾：台北8大学の学生 512名、韓国：ソウル8大学の学生 511名。（有効票のみ）

対象者の基本的属性： ①家族構成 日本（核家族 73.4%、直系家族 19.6%）、台湾（核家族 65.8%、直系家族 15.0%）、韓国（核家族 53.8%、直系家族 11.4%）  
 ②家族員数 日本（4人 43.4%、5人 28.2%）、台湾（4人 29.8%、5人 22.2%）、韓国（4人 30.4%、5人 23.2%） ③本人の続柄 日本（長男 34.2%、長女 14.9%）、台湾（長男 24.2%、長女 6.1%）、韓国（長男 23.7%、長女 7.8%） ④父親の職業 日本（経営管理職 31.9%、専門技術職 17.5%）、台湾（サービス業・自営業 22.3%、専門技術職 15.0%）、韓国（商工サービス業・自営業 34.5%、事務職 12.2%） ⑤祖父母と同居している者 日本 21.9%、台湾 19.3%、韓国 14.3%。